
ぽぽ日記...恐らく青春？

テラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼぼ日記・・・恐らく青春？

【Nコード】

N3791Y

【作者名】

テラ

【あらすじ】

主人公たちは自由に姿を変え、一定の能力の範囲内では人間以上の力を持つ高尚な伝説の生き物ティキュア・・・の、ハズなのですが。

彼らはとある大きな島の孤児院の学校で・・・まあ、いろいろとやっていますよ。いろいろとね。

はじまります・・・なにが？（前書き）

雪つちぎの789倍はギャグですよ。

はじまります・・・なにが？

ああ、えと、こんにちは。マナって言います。今日は良い天気ですね。ほら、天気予報もいい感じに「今日は台風が直撃します。皆さん注意してください」言ってるでしょ？・・・え？何か聞こえたって？気のせいでしょ。

うん、576%位の確率で気のせいだね。さ、それはともかく。ぶっちゃけ私、何もせずにぐーたらしてる学生なんです。そう、例えばクラス全員で授業中脱走したり、校舎壊したり、それで釘バット持った先生にシバかれたり。ね？ふつーでしょ？

でもね、いつも変な薬作って騒ぎ起こしてる友達に、あんたのその日記を公式発表したらウケるわよって言われまして、こうして公式発表の階段を登ってるって訳です。

大さじ五百二十三杯分のヒマと広い心を持つ聖者さんは見ていてね。生暖かい目で。

ではこれで。

さて、と・・・

「ねえフローラ！？これでいいの？」

「ゴメンなさい、マナ！今それどころじゃ無いわ！」

「え？どうして・・・ひええ！？アレは“伝説の釘バット教師リターデさん”じゃ！？何したのよ！？ま、まさか、誰かフローラの薬で倒れたとか？」

「ちよつと理科室爆発させただけよ！失礼ね。じゃ、よろしく！」

「え！？あ、ちよつと．．．」

「貴様も共犯かあ！」

「ち、違．．ぎゃあああああああああああああああああああ
ああ！？」

はじまります。

はじまります．．．なにが？（後書き）

青春ですねえ。作者はさすがに爆発はおこしてないです。え？なん
かやらかしたこと自体はあるのかって？それは．．．ひ．み．つ（
笑）

アイツの名前は変たi・・・（前書き）

今日の出来事。学校から帰る、犬がゴミ荒らしてる、すやの焼き
鳥どんを食べる。犬を散歩、洗う。

「ほら、ブルブルして!」

ブルブル（びしゃびしゃっ）

・・・水かけるとは言っていないぞ・・・

アイツの名前は変たi・・・

今現在の季節は春。この島の木々も賑やかな花を溢れんばかりに咲かせ、暖かい風がその花びらを舞い上げている。こんな中、学生寮から学校まで、てくてこと歩いていけるのはとても気持ちいい。ああ、気分も最高。・・・あ、ちなみに、新学期早々木の影で何かしてるアレを見なければの話だけど。

アレってのは、ぐしょぐしょに汚れた白い花嫁衣裳を着てグラサン装備、ドデカイ通信器を持った・・・男・・・？え？あれ女物だよな？おかしいよね？まあ、気にしちゃダメか。怪しいひとには近づかない。

「燻製危うきに近寄らず・・・だよな！うん！」

そう言つてショートカットの空色の髪を持つ少女はさつさとその場を立ち去った。

ついでに言つと皆さん、「君子危うきに近寄らず」です。燻製は勝手に走りません。

テストで書きちゃダメですよ。ちなみに彼女はテストでこれを書きました。

さ、それはともかく。少女は校舎にたどり着き、軽い足取りで窓から教室にひょいっと入りました。

「おはよう・・・ん？ねえ、窓のふち、皮がむけてるけど。なおしたら？」

そう言つて彼女がぺしぺしと叩いたのは・・・はておかしい、木の洞の入口です。改めて「教室」を見てみると、それは巨大な木の洞で、平らなでっぱりで作られたイスと机が並んでいます。

そう、彼女の通う学校の校舎は巨大な木そのものなのです。木の根元から階段状にあいた洞が各教室まで繋がっています。でもこれ

・フツ―ありえませんか。なんでこんなふうになんて

「そこがむけるのは、あんたみたいのがそこを入口にするからだと思っけど、ねえマナ？」

そう言っで登場したのは綺麗な長い茶髪に二つの花飾りをつけた少女です。結構美人です。

「・・・だつて、階段登るの面倒くさいじゃない。」

え・・・ちよつと待てマナとやら。キミはこの巨大な木の幹を登つて来ているとでも・・・

「まあ、確かに階段なんか登らなくてもあんたは飛べるものね、楽でいいわあ・・・なんてね、なおしてあげるから、ちよつと離れなさい。」

え！？飛べるの！？ピ―ーパン！？

「うるさいわね作者S。あんたも離れなさい。」

はい、すみません。てか、どうやってこつち（三次元）に干渉して・・・

「そこは気にするな、てかうるさいよ？」

はい。ごめんなさい。

「さて、じゃあやるわよ・・・」

作者Sを黙らせてスッキリした茶髪少女は窓のふちに手を置いて、何かを呟きました。すると・・・！

「これでいいかしら？」

なんと！傷ついていた木の皮が綺麗に治っています！ついでに新芽が出てます。これは一体・・・！

「ま、こんなモノかしらね。」

茶髪少女は大したこともなさそうに髪を後ろにサラツと流しました。そうめんみたいに。すると、そうめん茶色だから蕎麦？の間に鈴を付けた尖った耳が現れました。それは、いわゆるエルフやゴブリンの耳のようで、人間のモノではありませんでした。果たして、この少女の正体は！？続きはWEBで

え？皆さん何ジト目で見てるんですか？え？タネ明かせて？明

かさなかつたら？

（ ） なんか作者sを怖がらせるお好きなセリフをどうぞ

へ例：関節技決めるよ（b y友人M）・ねえ、カッターとハサミ、どっちにする？（b y友人H）・考えてみりゃ恐ろしい友人だらけだなあゝ

え、あ、そうですか。すみませんわかりましたタネ明かしますよ。彼女たちや自由に姿を変え、一定の範囲内で強い力を発揮する生物「ティキュア」なのです。例えば、さつき出てきたマナの空を飛ば力とか、茶髪少女の木を治す力とか。ついでに、校舎や学生寮は茶髪少女みたいのが苗木を育てて意のままの形にしてきたものなのです。

そしてここは、親が死んでしまったティキュアや、人間の孤児を集めて育てている島の孤児院「フィリア・グラン学園」略してFG学園なのです。ok？わかりました？

え？最初に説明しろって？そんなの・・・面倒に決まってるじゃないですか！！！！

（ 皆さんによる作者ボコリtime ）

そ・・・それでは（ゴホッ）話を戻し（パキパキポキ）ます（ドサッ）

作者s、五秒ほど死亡。墓は要りません。散骨にしてください。これ本心。

あ、皆さんこれは笑っちゃダメですからね？犯人皆さん設定ですからね？

と、いふわけで・・・

「ありがと、フローラ！これで先生に怒られずに済むよ！」

「いいわよ別に。大したことじゃないでしょ？・・・あら？」

フローラ（ただ今判明）は森の水たまりみたいに綺麗な緑と茶色の目を潜めました。視線は、窓の外に向いています。

「？どうしたの」

「ん、アレ・・・何かしら」

彼女が指さしたものは・・・

次回、「虚構に隠された真実」！「アレ」の正体とは！？

・・・真実が今、明かされる・・・！！

あれ？このタイトルカッコイイかも。まあ、たいていの人「アレ」の正体わかってますよね？

では次回（＊、＊）

*タイトルと

内容は変更する恐れがあります。

アイツの名前は変たi・・・(後書き)

ちなみに友人H イリアスだったり。

悪戯も青春のうち（前書き）

なっなんと！作者は恐ろしいことに気がついてしまった！！

．．この前、理科室で爆発起こしたことないとか書いてしまいましたが、実はイカの目玉を爆発させて白衣がすごいことになった事がありました。

いや．．．お恥ずかしい。

悪戯も青春のうち

前回までのあらすじ

主人公マナと友人フローラ（本名トウリ）は窓の外に不審なモノを見つけた。

以上。

「アレ．．．何かしら．．．？」

フローラが指さしたのは、

（元）白い女物ドレス、サングラス、ドデカい通信器、坊主頭の、男。

．．．ふむ．．．．．

「フローラ、アレ．．．は．．．あああああああああああ
あああああ！？」

「あら、どうかしたかしら？」

「ちよっ、ちよつとソレ！？」

ソレ。それは、天から舞い降りたる神．．．ではなく。

^{フローラ}神に制裁を加えられたアダムとイヴ（のあの人。）であります。
ちよつと惜しかったね。

制裁つてのはフローラの指から発生した（ティキュアは一定の範囲内で姿を自由に変えられるのだ！）いわゆるツルのムチに頭からぶつ刺さること。下界に追放されたほうがどんなにマシか。

フローラは横で呆然とするマナと野次馬をガン無視して軽々と男を教室まで持ち上げました。

そのまま彼のポケットを探り始めます。最初はヤバイと思ったケド、楽しそうなのでこれにはみんな参加します（コラ）

通信器 無言で大破させました。マナが。

大人向け写真集 野次馬が燃やしました。

今年からの教師免許しょ．．．！？

最後の一つを見たクラスの空気が固まりました。あ、これは……

「マナ・・」

「フローラ、みんな……！」

「
・
・
・
・
（コクリ）
」

何でもやらかすこのクラス。F組が心をひとつにして、

今
.
.
.
!
!
!
!

「せいのつ」

「コイツヲケスツッ！」

ガラガラツ

[illegible]

「皆さん、おはようございます」
担任登場

•
•
•
•
•

•
•
•
•
•
•

⌈
•
•
•
•
•
⌋

「ぎゃあああああああ!？」

なんでよりによってこんな時に!?

突如現れた担任。F組のみんなはこの事態にどう対処するの
 かつ！（なんか魔王登場みたい）

次回、「みんなの絆」！！

・！！

・・・・絆が今、心をひとつに・・・

え？カツコよく決めてごまかそうだったってそうはいかねえって？
いいじゃん、青春なんですから。（は？）

*タイトルと内容は変

更する可能性が278%ほど。

悪戯も青春のうち（後書き）

ピンチを乗り切れ！

前回までのあらすじ

変態先生のデータデリートしようとしたら新たな敵が現れた。

(\vdots は?)

「おはようございます・・皆さん、新学期早々何をそんなに固くなっているのです。」

と、先生。ダメだよ、なんでこんなに限って!？・・・ん？

「あれ？お姉ちゃん？」

「あら、マナじゃない。あなたF組だったの。よろしく。」

「つて……ええええええええええ！マナ、あんた姉妹いたの！」

と、（うしろにアレ隠しながら）フローラが叫ぶ。うん、そう
 いえば誰にも言って無かったかも。

今入ってきた先生、名前をデリラティと言つて私の姉です。．．．
 つて、悠長に説明してる場合じゃないよコレ！（じゃあすんなや）
 どうしよう！いくら姉といえども教師処刑の罰則は．．．！

ええい、仕方ない！秘技、「アイコンタクト」発動！とたんにちやらららーんとヒーロー登場的な

音楽が流れてきました。でもF組の皆のただの鼻歌なのでシヨボい
です。ただのヘタレ登場みたいです。

でも一応技は発動しました。

(・・・フローラ! なんとかHR中もたせよう!)

強い視線でアイコンタクト。フローラはそれに小さく頷いて答えました。

(了解!!!)

ああ素晴らしき絆。．．．でも皆さん、冷静にツツコミ入れるとですね、変々．．．不憫な先生の体は既に

「皆さん、何をしているのです、早く（がしつ）席に（ずるずる）つきなさい（ぽいっ）。」

「なに言ってるの、ヘンタ・マグテッド（ヘンタイ）を捨てただけではないですか。」

だこの人。なんちゅう名前だ。)
もう、あなた本当に私の姉！？疑っちゃうもうつ！

「さすが、あんたのお姉さんねえ……」

視線を感じる。いわゆる殺気と呼ばれる視線を感じる。赤と紫色のオーラも見える。コレは・・・

「あ、いえ、その……」

[illegible]

（フローラあ、なんとかしてえ！）

（そこはなんとかっ
・
・
死にたいのっ！？）

なんで日常生活で生死の堺に立つてんだ私たち。え？気にしちゃだめって？うん、そうだよな。

「あっあの、先生、HRはじめましょっ……」

」。

あ、無理だコレ。この作戦は放棄。

うりゃあ誤魔化し作戦その2！

「先生、私弁当忘れっちゃって．．．取りに行ってもいいですか？」

その一言は一刀両断されました。

「後で行きなさい。」

．．．．．どうすりゃいいのコレえ！？

成すすべもないままやられるなんて、ヤラレル、ヤラレルナント嫌だイヤだイヤダ！（故障しました）

そんな事を考えているさなかに無情に響く足音とずるずるとアレを引きずる音。

（ひいひいひいひい！どうしよう！？）

（落ち着きなさいマナ！アレをよければいい話よ！）

そっそうか！ただ投げられる障^{ヘンタ}害物をよければ良いんだ！．．．
そつとわかれば．．．！

ひゅっ

「っはあああああああああああああああ！」「

頭の上を無言で通過する変態。よっしゃあミッシヨンコンプリー．

ガラッ

「おいマナ、おまえ弁当忘れていったろ。持ってきて．．．」

聞きなれた友人の声。彼の声が聞こえたのは．．．、まさか．．．

「あっ」

「えっ」

「うそっ！？」

「な．．．ぎゃあああああああああああああああああああああ
ああああああ！！！！！！！」

バキボキ ドッシャー

彼．．．テラの声が聞こえたのは窓の位置。変態が投げられたのも、窓のトコロ。そこから予想されることは．．．

「親愛なる友よ．．．その魂が母なる“始めの木”に祝福され、新たな身体を授かることができますように．．．」

「勝手に殺すなテメエ！」

あ、生きてた。すごつ。

「いやあ、てつきり木から落ちたものかと．．．」

「なんで俺がその程度で死なないといけんのだ。」

窓からこちらをジトツと見る少年はすっかり戦闘モードである。

紅色の瞳が燃えるように輝き、指の爪がビシビシと硬化して音をたてる。

あ、これはヤバい。

言い忘れていたがこの少年、同じ木に住む仲間で学校で人間に近い姿に擬態^{エルフ}していない時はドラゴンの姿へと変貌します。むっさ強いです。人型の時でも勝てたことありません。

これは．．．どうしよっかなあ．．．

「あら、テラではありませんか。」

友人に話しかけるような先生^{ディラニティ}の軽い言葉。それにさっきまで殺気ばら蒔きまくりだった

テラがビクツと体を震わせた。．．．これは？

「テラあなた、今日は治療棟に居るはずではなくて？」

「っ．．．！」

「さては逃げましたね？」

「．．．」

「後で職員室．．．いえ、保健室にいらつしやい。．．．あとフローラ。」

「はっはいっ!？」

「あなた保健隊（生徒の治療や薬の開発を行う）でしたね？手伝いなさいね。それで今回のことは免除します。．．．それで、マナ．

「..」

「はっはいいい!？」

目の前に飛び込んできたものはいたいけ（に見えなくもない）少年のえりをつかんでニッコリと微笑む聖母のような美しき笑み。その美しさは、メデューサが裸足で逃げそうなくらい。そんな聖母の一言は、

「あなたにはミツチリ働いていただくので、そのつもりで、ね？」

「い...やああああああああああ!!!!」

...その叫び声は学園すべてで聞くことができた、とみんはないいます。そのあと私は...

私は...っ！続きはまたこんど書きますね...

「いやあすごかったわあんたの悲鳴!」

「だって、だって晩ゴハン抜きなんてえ...ひどすぎよ、...

おなか減ったあ...」

「ふふ...」

「...なに笑ってるの？」

「あんた、なんで私達以外のルームメイトが居ないのか気づいてる？」

「え？」

「ただいま。...ほらマナ、飯。つくってくれたアイラやテナンに感謝するんだな。まあ、捕ってきたのはオレだが？」

「...ありがとう!」

とりあえず、一件落着か...あれ、でも待てよ？たしか先生、

夏になつたらしっかり働いてもらつとかなんとか・・・気のせいだよな・・・？

b y テラ

ピンチを乗り切れ！（後書き）

アイラとかテナンは次出します。

：え？テラって聞いたことあるって？そんなこと・・・ありますね。
テラはなんとなくの私のイメージでつくったのを独立したキャラにしたんです。

だから私と完全に性格がマッチしているわけではないですよ。こない奴ではない（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3791y/>

ぱぱ日記...恐らく青春？

2011年11月30日19時56分発行